

「持続可能な地域コミュニティの実現に向けたシンポジウム」の開催結果

1 開催日時

令和6年2月4日（日）14時から17時

2 開催場所

広島国際会議場「ダリア」

3 参加者数

会場：約300名（うち、ワールドカフェ：100名）

WEB参加：約160名

4 プログラム

時間	内容
14 時～	○開会 ○市長挨拶（3分）
14 時 05 分～	○ひろしまLMOロゴマーク発表セレモニー（10分）
14 時 15 分～	○基調講演（45分） 【演題】 みんなでつくる 広島型地域運営組織「ひろしまLMO」 【講師】 島根大学 教育学部 教授 作野 広和 氏
15 時～16 時	○トークセッション（1時間） 【テーマ】 「自分たちのまちは自分たちで創り、守る」 ～「共助」の精神に基づく市民主体のまちづくり～ 【パネリスト】 コミュニティデザイナー、studio-L 代表 山崎 亮 氏 ひろしまLMO大林学区地域運営委員会会長 坊 聡彦 氏 フリーアナウンサー、元 TBS アナウンサー 栢田 絵理奈 氏 広島市企画総務局長 阪谷 幸春 【コーディネーター】 リエゾン地域福祉研究所代表 丸山 法子 氏 【コメンテーター】 島根大学教育学部教授 作野 広和 氏
16 時 10 分～	○ワールドカフェ（45分） 【テーマ】 ①あなたの暮らしに地域コミュニティは必要ですか？ ②地域コミュニティ活動に楽しく参画するためには？ 【ファシリテーター】 リエゾン地域福祉研究所代表 丸山 法子 氏
17 時	○閉会 企画総務局長挨拶

5 ワールドカフェで出された意見等

(1) 「テーマ①あなたの暮らしに地域コミュニティは必要ですか？」

【必要とする意見等】

カテゴリー	内容
団体組織	・ 地域の問題解決の窓口として必要 ・ 必要。ただし、どのように維持、発展させるのか。 ・ 必要だが参加しない人にどのように参加してもらうか。 ・ なじむために地域の自治組織が地域へ紹介などしている。一度参加すれば楽しさが分かり地域の人も参加が続いていく。 ・ 町内会、コミュニティの良さが見えていない。 ・ 楽しい、多世代の関わり必要、マンション生活の人に必要 ・ 必要だが、地域型コミュニティが崩れている。 ・ コミュニティは必要。町内会とか決まったコミュニティである必要はない。自分の状況が変われば必要
活動	・ 地域の行事などがなくなり活気がなくなるから。 ・ コロナがきっかけでできなくなった行事があり（地域と学校が合同で運動会）、参加者も多く楽しかったため。 ・ 学校と地域の繋がり、「楽しみ」を大切に活動。子育て、災害時、子供会の経験 ・ 入ることが当たり前、祭り・運動会が無くなるのは人とのつながりが無くなること ・ 実際に活動に参加する人は老若男女問わず幅広く。活動費用について市として一定の補助をしてほしい。 学生がどんどん参加する。 ・ 新しい人が関わることでいいところを再発見、顔見知りになるのは大事。世帯の様子が分からない人たちはどう関われるかな？
非常時 防災	・ 何かあったとき 災害、困りごと 孤立、情報がないと不安 ・ 必要と思っていない人も当然いるので強制はできない。非常時には助け合いが絶対必要と思う。
交流 連携 繋がり	・ なくてもいいけどあると生活が豊かになる。核家族化が進み横の連携が無くなっている。 ・ 誰かの想いも拾える、おせっかいのきっかけ、いいねの広がり、誰でもいつでも繋がること、楽しむ事嬉しい事これらの連鎖、人と人、町が盛り上がる。 ・ 地域の活性化や全世代のつながりを作れるから楽しむが生まれる。 ・ 遠くの親戚より近くの他人 ・ 同じところに暮らしている人と仲がいいと安心。世代を超えた交流は地域じゃないと難しい。 ・ 人との会話や活動がないと。楽しく暮らすために必要。子供を地域にも育ててもらった。 ・ 必要であってほしい、こういう場があれば繋がる。 ・ 身近な単位で何気なく気にかけてくれる人がいることに支えられている。あらゆるところがそうだったらいいな。 ・ 必要か不必要かはどちらでもないが自分にとっては存在証明、地域に自分の事を知っている人がいるのが心地いい。 ・ 一人にいる人にこそいい制度。新しい土地に住む人にとっては必要、誰か頼れる機会を提供 ・ 何気なく過ごしていても気づかなくても他者と関わることで気づくことがある。 ・ 不安をお互い言い合える。顔見知りになれば困ったことがあればいいやすい。 ・ あったら嬉しい、世代間交流が楽しい、支え合う人々の存在、仕事でいいけど地域が見守る。 ・ 単純に言えば一人では何もできないため必要 ・ 人との関わり（多くの世代）をもつことでお互いに助け合うことができる。

カテゴリー	内容
交流 連携 繋がり	・集いの場で絆を紡ぎ助け合いのベースとしている。 ・一緒にいろいろできる、知り合い、友達が増える、色々な経験に触れることができる、社会経験への理解が深まる。 ・人間は社会と切り離して生活できないと思うから。その社会を発展させ維持していく仕組みがコミュニティだと思うから。そのコミュニティを楽しめる達人になりたい。 ・〇〇つくりなど多くの人が関わることで出来ることの幅が広がるから。視野が広がるきっかけになる。 ・相手の考え方が分かる、相手の意見を聞き自分が多様な考え方ができる。 ・子供から大人まで繋がれる。 ・年齢や性別を超えたつながりを持てる、弱者を見つけやすくなる。 ・地域にまとまりがあれば心配な時に声を出せるし隣の人の存在を意識するのではないかな。 ・災害時の助け合い、世代を超えた交流、子供達の為の活動、普段からのつながりが大切、子供から大人まで地域全体の活性化に繋がる。 ・楽しくみんなが互いに巻き込み巻き込まれ合えばいい。 ・寂しい気持ちが減る。高齢化社会、コロナウイルス拡大による孤独孤立・防犯対策、同じ世代で固まりやすい。
郷土愛 地域資源	・防災活動、子供達が戻ってくる街にするため、地域資源を維持、子供の時の経験、見守り、「ありがとう」、楽しい活動、生きがい ・地域の中で子供と年配者のかかわりも出来、年配者は子供の声で元気をもらい子供は昔の話や遊びを教えてもらい郷土愛も育っていくのではないかな。
高齢化	・高齢者が社会に関わるきっかけになる。 ・多分 50 歳くらいから特に必要になると思う。 ・1 人暮らしの孤独死を防ぐ、防犯、災害、認知症を防ぐ。 ・孤独死を防ぐ、回覧板等は防犯に役立つ、地域の祭り等で郷土愛を持てる、知らない土地で声掛けが嬉しい。 ・田舎にとって地域コミュニティとは安否確認、情報収集の場。みんなで集う場所と思う。
子育て	・子供が小学校に上がって交友関係が増えてきて色々な人とのつながりが子供にとってもいい影響を与えることに気づいたから。 ・パパママが主役。ジジババが後押しして子供達の未来（安心・安全）を育成

【不要とする意見等】

- ・なくても生活に困らない、負担、人間関係が煩わしい、楽しめない、内輪で楽しんでいる感じで入れない。
- ・ゴミや道路の整備などは行政でもいい。
- ・一人だとコミュニティに属していなくてもどうにかなってしまう。将来的には必要になると思う。災害時、ごみ捨ての問題
- ・繋がりが必要だが地域コミュニティじゃなくても（何をやっているか分からない）。
- ・今の立場（大学生の 1 人暮らし）では不要。ゆくゆくは必要になりそう（家庭を持つとか）→子育て、減災など→しかし子供の人格形成や文化に触れる経験には役に立つ→郷土愛の形成、田舎の方が地域のつながりがある。
- ・町内会加入率低下、退会する方もメリットがないと思われる。
- ・メリットは何？個人情報、防災に繋がっていない、町内会の活動に参加しない人が多い、性格的に参加したくない人もいる。

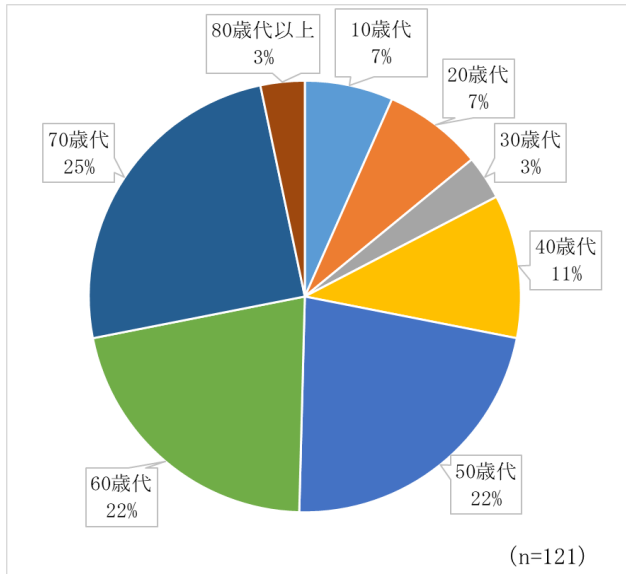
(2) 「テーマ②地域コミュニティ活動に楽しく参画するためには？」

- ・やさしさ。人を大切にすること。相手の話す・行動に寄り添ってコミュニケーションをとる。このことで心のきずなが結ばれる。
- ・楽しく、フランクに話あう。人間関係を大事にし、フランクに話ができる関係を築く。
- ・達成感。実行は楽しい事ばかりではなく苦しいこともある。成果の見えるやり方、成果が出ない時は関係する人が評価してあげる。
- ・お徳感、完全なボランティアから少しでもお返しがあっても。
- ・参加しやすいテーマ、時間帯、自分の意見・アイディアが通る、短時間、誰とでも仲良く受け入れる体制
- ・やりがいを感じてもらおう、広報活動、多様な人が参加できるイベント
- ・楽しくしていることが見える事、好奇心を高める取り組み、拡散する仕組み、楽しい体験
- ・活動の場づくり、広報活動が重要？グループ内での SNS 発信など
- ・理解（相互に）しあって協力できること。
- ・楽しい事（達成感）（夢に繋がること）
- ・貢献できていると思う事
- ・「家族感」どんな人でも受け入れる。初回でも楽しく話す。
- ・今後どうなりたいかを伝える。
- ・無理は禁物、お互いさまの心
- ・行事に若者が関心があることを取り入れる。
- ・活動そのものをまず人の為ではなくとにかく自分がエンジョイする。そこから「粋だな」「面白そう」と思わせたら勝ち→つついつい関わってみたくなるようなしかけがあれば。
- ・面白くて楽しくて粋なムード、おいしそう食べてみたいという食の刺激、体験を皆で共有して次もやりたい気持ち
- ・パン食い競争、スタンプラリー、町内運動会、プレイスクール、収穫祭、文化祭、陶芸教室、掃除
- ・幅広い世代が参画しやすい雰囲気作り
- ・楽しく、声掛けします、自治会全体で見守ります。
- ・笑いあう、つながる、困った時に助け合う。
- ・壁を作らないこと。まずはあいさつ
- ・幅広い世代が楽しめるコンテンツがあれば楽しめる。若い世代にはゲーム性があるもの
- ・LINE での情報発信→参加者増。高齢者も使える。
- ・小さなおせっかいと勇気
- ・当事者意識を持って楽しく、ゆるく参加
- ・楽しむ姿勢、受け身にならない、自発性・主体性を育む。
- ・まず相手の話すことを聞く、それに対し否定的な事を言わない、相手を肯定する。
- ・同じ釜の飯を食う場づくり。繋がることのできる場づくり
- ・スタッフが楽しんでいるか、無理しない参加できるときだけ。家族の理解
- ・飲み会を企画する。
- ・相手の人を大切に思う。自分も他人も大事に
- ・否定しない、いろいろな考えがある。
- ・世代間の交流、居場所作り、世代間の認め合い
- ・参加するだけでいい、運営は高齢者など手が空いている人で。
- ・自由参加、会費無料。活動に労力、お金が掛からないように。
- ・毎日、食を通じた交流の場を無料で。
- ・「活動」が自分にとって大切であると気づくこと。
- ・現役は参加。コミュニティづくりは高齢者こそ
- ・参加しやすさ、たのしさ、やれることから、ゆるさ、てきとうさ
- ・自分で自覚する場と役割。やらされはNG。
- ・自分の得意なことを活かす。多様な参画の仕方を許容できる雰囲気作り
- ・フラットに！笑いがいる！手作業を楽しむ、垣根を作らない、食を楽しむ。
- ・町にワールドカフェを！話しやすい。菓子があると。仕事っぽくならないように。

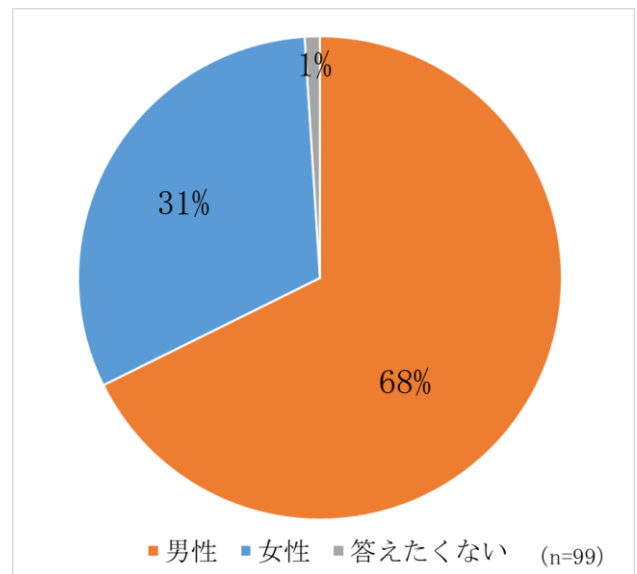
- ・違いを楽しむ。家庭内の愚痴を聞いてもらう→心軽くなる。
 - ・笑顔、自分もみんなも楽しむ、世代を超えて誰もが言い合える信頼、冗談が言える。
 - ・他者への思いやり、違いを楽しむ認めあう、何でも楽しむココロ
 - ・暮らしの延長線上で自分の好きな事を活かして役に立てたら。いくつになっても役割があって役に立てて有難うと言われるは嬉しい。
 - ・目的を共有することは活動をするうえで大切
 - ・気軽に参加できる集まり場が必要
 - ・ありがたいこと、楽しい事楽しい事、もっと人々がうれしくなれるように。
 - ・得意、好きが活かせる。
 - ・人生のプラスになるような経験
 - ・活動のみえる化
 - ・負担にならないくらいの割合
 - ・目的・目標を達成した時の喜びの共有
 - ・距離時間などを含めロケーションが大事
 - ・同性同年代の方がたくさんおりさらには広い年代の人も呼び込む。
 - ・いろんな考え、一人では思いつかない楽しいが見つかる。
 - ・楽しむ心、たのしいこと、ワクワク、肯定感
 - ・資金、お金
 - ・元気、友達、笑顔、思いやり、助け合い、集まる場所、居場所
 - ・話題をたくさん持っている人、色々な地域の友達
 - ・集まれる場所や空間
 - ・イベント、花火があつたら屋台があつたら行きたい。
 - ・清掃活動の場、中学生と小学生交流・小中高大学と大人の世代間交流
 - ・世代を超えた繋がり。今までの地域コミュニティとこれからの地域コミュニティ両方大事
 - ・皆が楽しく活動ができる状況を作ること。
-
- ・若い人からスマホやパソコンを教えてもらう。
 - ・小学校の発表会に住民を招待してもらい参加する。
 - ・中学生や高校生も地域のイベントに参加してもらえそうな内容に
 - ・何か企画が必要。興味があり魅力を感じられれば人が集まるのでは。
 - ・ハザードマップ作り、地域歩き、写真を撮る。
 - ・多世代カフェ、交流の場の提供
 - ・実際に歩いたりして町の事を知る。
 - ・良い事は何でも受け入れる、前例を壊す前例を壊す、インセンティブ
 - ・形に残すこと、次世代への伝統の切り替え、継承
 - ・多世代の参画、みんなの意見を聞く、メリットの提示
 - ・課題を解決しない。やりたいことからしてみる。
 - ・イベント会場までの足、地域差を無くすこと。
 - ・顔見知り同士で一緒に参加する。
 - ・楽しく？やり方や流れを教えてくれる。役割をあててくれる。
 - ・同じ地区の方ばかりではなく他地区の方も参加できるように。
 - ・関係づくり。名前の呼び方も苗字から下の名前に。
 - ・楽しく参加より参加して楽しさが分かった。
 - ・若い人には自己実現ができるつながり、年配の方には安心・安全・つながり
 - ・これから主体となる世代に価値を感じてもらう目的がある。
 - ・成長・つながりができる意見が通りやすい環境、参加しやすい土壌（居心地の良い環境）を作る。

6 参加者アンケート集計結果（アンケート回答者数 124 人）

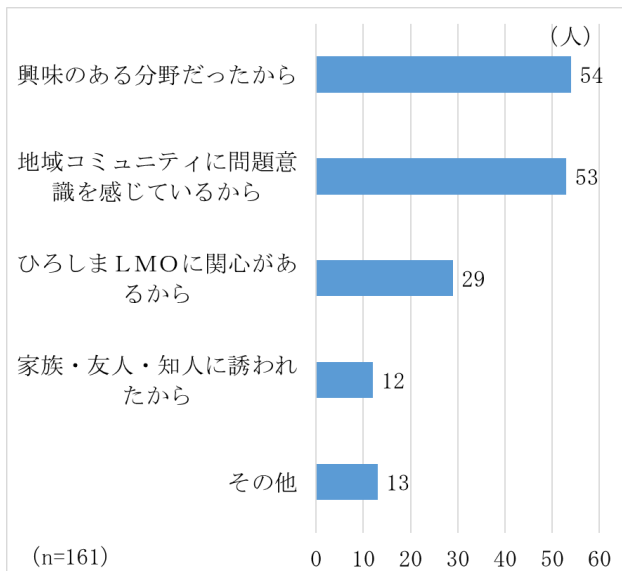
(1) 参加者の年齢



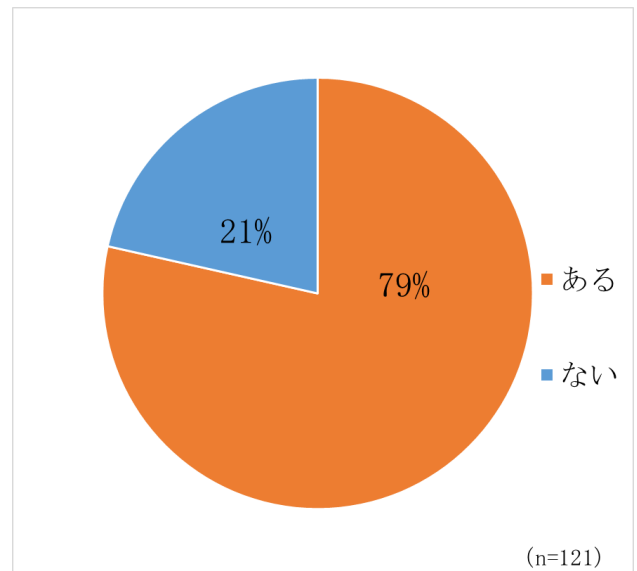
(2) 参加者の性別



(3) シンポジウムに来場した理由（複数回答可）

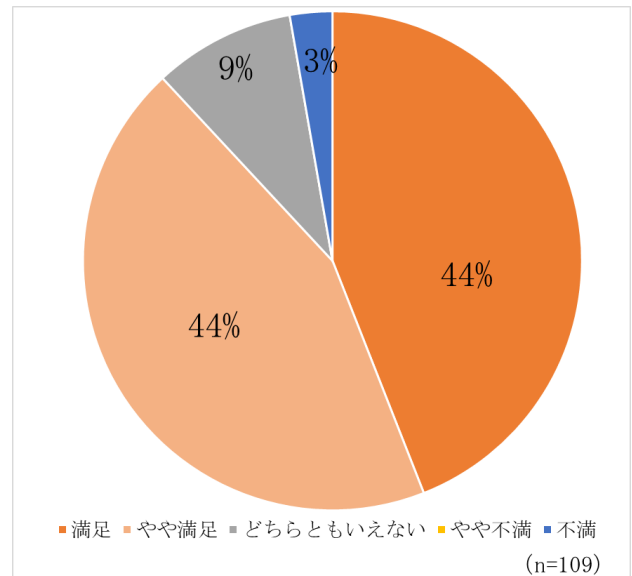
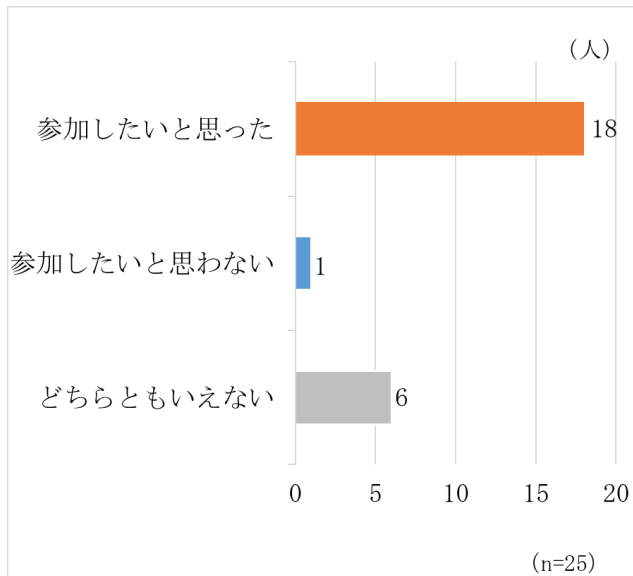


(4) これまで地域活動に携わったことがありますか



(5) シンポジウムに参加して今後地域活動に参加してみたいと思いましたか ((4)で「ない」と回答した方)

(6) シンポジウムに対する満足度



自由記載の主な意見

- ひろしまLMOを立ち上げたい気持ちが強くなった。
- 組織を作ることには焦り過ぎず、話し合いの場などを設け、考えを深めることが大切だと思った。
- 多様な主体の連携、特に企業や大学などの巻き込みが重要だと感じた。
- ひろしまLMOは行政の下請けではないということが分かった。
- 広島のことをより好きになること、広島に住み続けたいと思うことなど、ひろしまLMOは広島に沢山の利益をもたらすことを改めて知ることができた。
- ひろしまLMOが、市の転出超過の増加に歯止めをかけるための方策の一つになると思った。
- 小さなふれあいから始めることの大切さを実感した。
- よそ者も大切な資源であることを再認識した。
- 顔の見える関係づくりの大切さを感じた。
- 「自発的な想い」をどれだけ上手に取り込んでいくか、本質的なことを皆で理解することが大切だと思った。
- 一人一人の楽しみ、得意なこと、生きがい、やりがいとなることを続けていくことが結果的に誰かのためになったり、地域の困りごと解決のきっかけになると思った。
- 地域コミュニティは日々の暮らしを充実させる上で、とても大切だと改めて感じた。年齢関係なく、みんなで形成することで人生を豊かにできると思う。
- 海側と山側の交流の場など自治体を超えたつながりも今後あってもよいのではないかと感じた。
- 多世代・多文化・多業界、互いの共生や、縦型ではなく、横や斜めも含めた立体的な関係づくりが大切だと感じた。
- ずっと住んでいると当たり前になってしまうが、今までずっと地域で過ごしてきた方々の力と新しい参加者（企業、学生など）を巻き込み、みんなで地域への愛着を築いていきたいと思う。

- 地域コミュニティの多様性を担保できるシステムを作らないと、形骸化してしまい成功しないと思う。
- ひろしまLMOについて、市民に十分には仕組みが理解されていないようで、資金の使い方も工夫が必要だと感じた。
- ひろしまLMOには若い世代の参加が必要だと思うが、毎日の暮らしに精一杯でなかなか参加できそうにないと感じた。
- 旗振り役がいないとまとまらない。